資料１

令和元年度地域総合支援センター事業計画書の中の重点取組項目の実施内容

あさぎり・おおくら総合支援センター

主な実施内容	成果	主な工夫
【自主活動グループ立ち上げ支援】 パレス朝霧・人丸会館でいきいき！元気アップ教室を開催。終了後、参加者が主体的に運営する体操グループの立ち上げを支援。	新たに２グループの立ち上げを支援し、現在４グループが活動継続中（あさぎり笑輝会、あさぎり体操クラブ、パレス朝いき会、ひとまるきらきら）	・グループメンバーの担う役割等を記載した教室運営マニュアルを作成。 ・継続的に教室運営が行えるよう、地域の人が通いやすく、利用料が無料か低料金の会場を選定。
【中崎サテライト相談】 毎月第４月曜日「高齢者ふれあいの里中崎」で、血圧・体脂肪・握力測定と健康相談を実施。毎月の測定結果で自身の健康状態をチェック。測定結果を手渡し、センター内で相談内容と合わせて記録。	・H30.5から開始し、昨年度延257名、今年度上半期延べ130名が利用。 ・利用者が自身の数値の変化に関心を持ち、健康への意識を高めている。 ・利用者との関係性が構築でき、有事の相談対応に適切に対応できている。	・センターから離れた場所で実施。 ・来館者が多い月曜日に設定。 ・利用者に覚えてもらえるように、実施日を毎月第4月曜日に固定。 ・運動等前の健康チェックを兼ねて利用していただけるよう、開始をヨガ教室・浴室利用の開始前に設定。
【関係者とのネットワークづくり】 民生児童委員（朝霧中学校区内）とケアマネジャー（朝霧・大蔵中学校区の居宅介護支援事業所）との交流会を開催。	ケアマネジャーから「地域のサロンに行ってみたい」、両者からは「顔を知ることができ良かった」「また、このような機会を持ちたい」などとあった。	参加者が話をしやすいように、互いの役割を説明する機会を設けたり、グループワークを少人数制にしたり、地域によくある事例をもとに自由に意見交換できるよう工夫した。

令和元年度地域総合支援センター事業計画書の中の重点取組項目の実施内容

きんじょう・きぬがわ総合支援センター

主な実施内容	成果	主な工夫
【認知症を支える地域づくり】 王子小学校区で徘徊高齢者に対する「要援護者見守りSOSネットワークの声掛け訓練」を実施。	・地域住民の認知症への関心が広がり、地域住民が認知症の人の見守りを考えるきっかけとなった。 ・自治会単位で認知症の勉強会を行う意識が広がった。	・地域住民を対象に事前学習会を行った。 ・より実践に即した訓練になるよう、介護サービス事業所や明石警察署と一緒に取り組んだ。
【地域の新たな担い手の発掘・育成】 世代や障がいの有無を越えて住民が地域活動を始めるきっかけとなる学習会「明石版無理しない地域づくりの学校」を実施。	・毎回地域で活動している人を招くことで、参加者が地域活動実践の視点やノウハウを吸収できた。 ・参加者同士がつながり、新たなボランティアグループが立ち上がり、住民の集いの場ができた。	・地域活動を行いたいが進め方がわからない住民を発掘し、参加を促した。 ・参加者が実際に地域活動を始めるにあたっての後方支援を行った。
【出張相談窓口の設置】 センター圏域の地域特性を把握・分析し、港町で出張相談等の活動拠点を設置。月1回センター職員を配置し、出張相談、周辺住民への見守り訪問、健康教室等を開催。	・問題が深刻化する前に訪問し、予防的な関わりができるようになってきた。 ・サロン等がなかった地域に通いの場ができた。	・地域の課題を把握・分析した上で活動拠点を選定。 ・センター内で十分議論し見守り体制を作っていく必要性を共有した。

令和元年度地域総合支援センター事業計画書の中の重点取組項目の実施内容

にしあかし総合支援センター

主な実施内容	成果	主な工夫
【社会参加と地域の担い手づくり】 地域の居場所にひきこもり気味の中学生をつなぎ、社会参加するきっかけづくりを行った。	・他のひきこもり気味の中学生を誘ったり、幼稚園児との交流の中心になるなど、本人が担い手の一人として活躍している。 ・住民の発達障がい等の理解が深まり、住民自身の役割や生きがいづくりにつながった。	子どもへの支援に関心のある人（スクールガード等）が関わっており、本人が興味を持った居場所（農園での野菜づくりや、総合福祉センター新館のみんな食堂等）へつないでいる。
【多機関との円滑な連携】 ・相談支援に携わる機関を定期的に訪問し、センターの役割等について周知。 ・ひきこもりの中学生の事例に関わる学校や発達支援センター等と協働し支援。	・相談支援機関とお互いの役割を理解することができたことにより、連携する上で配慮すべき点が明らかになった。 ・多機関で適時ひきこもり事例の情報を共有するなど、有事の際に支援できる体制を構築できた。	・相談支援機関と必要時に円滑な連携が図れるよう、コミュニケーションの機会を持つよう努めている。 ・事例概要・連携課題等聞き取り項目を決め、面談に臨んでいる。 ・多機関で事例の支援の進捗状況を共有している。
【ケアマネジャーとの連携強化】 ケアマネジャー対象に交流会「にしあかしほっこりミーティング」を開催。センターの役割の周知や座談会を行った。	・ケアマネジャーから「センターの役割を知った」「困ったらぜひ相談し、連携したい」などとあった。 ・座談会を通じて、事業所を越えて相談し合える関係ができた。	時間をかけてセンターの役割等を周知した。

令和元年度地域総合支援センター事業計画書の中の重点取組項目の実施内容

おおくぼ総合支援センター

主な実施内容	成果	主な工夫
【認知症に関する啓発】 ・認知症サポーター養成講座の開催 ・住民と協働し、要援護者見守りSOSネットワーク声かけ訓練を企画。 ・まちなかゾーン会議で認知症の事例の現状を共有し、メンバーができることなどについて意見交換した。	・地区社会福祉協議会が主体となり寸劇を行うなど、小学生やその親等に対する認知症に関する正しい知識の普及啓発に取り組めた。 ・住民とともに要援護者見守りSOSネットワークの声かけ訓練の実施計画づくりを進めることができた。	・自治会単位で認知症サポーター養成講座を開催した。 ・サロン等から直接聞き取ったニーズや相談内容をまちなかゾーン会議で報告した（それにより、住民から認知症の正しい理解の啓発について前向きな提案があった。）。
【8050問題に関する取組】 ・まちなかゾーン会議で、当事者の声を踏まえ、ひきこもりをテーマに検討。 ・住民アンケートの実施や、家族会やひきこもり相談支援課を招いての研修会を実施。	・住民とともに検討したことにより、事例に対する理解が深まったり、「悩みを聞くことはできる」といった地域力に気づくことができた。 ・障がいのある人やひきこもりの人などとともに地域生活を送ることの大切さを理解することができた。	・家族会や当事者の話を直接聞く機会を設けた。 ・ひきこもりに対するネガティブなイメージの改善に向け、全国の好事例を共有した。
【ケアマネジャーとの連携強化】 センター圏域内の居宅介護支援事業所等を対象に、巡回訪問や研修会、事例検討会を実施。	昨年度に比べ、ケアマネジャーからの新規相談は半年で10倍になり、高齢者虐待、金銭問題等の事例に関する相談が増え、早期発見・早期対応につながった。	全ての居宅巡回、研修等にすべての地区担当職員が同席したり、センターの広報誌を活用しセンターや各職種の役割を周知した。

令和元年度地域総合支援センター事業計画書の中の重点取組項目の実施内容

うおずみ総合支援センター

主な実施内容	成果	主な工夫
【認知症理解の促進】 子どもに認知症を理解していただくため、まずは児童クラブに働きかけ、初めて子どもを対象とする認知症サポーター養成講座を錦浦児童クラブで開催。	・小学2年生～５年生が、認知症という病気とその人の気持ちについて学習した。 ・参加者一人ひとりがこれから自分たちができることを語ることができた。	・小学生向けにクイズや絵本を用いてわかりやすく解説した。 ・学年によって理解度が異なるため、学年別の少人数グループにキャラバンメイトを１人ずつ配置し理解を助けた。
【地域のケアマネジャーへの支援】 ケアマネジャーの支援者としての課題をケアマネジャーとともに検討 （昨年度は地域のケアマネジャーとの関係性づくりを重視し意見交換会等を開催してきた。）。	・ケアマネジャーの課題を知ることで、そのスキルアップにつながる支援ができた。 ・ケアマネジャーとの会合の機会にあわせてケアマネジャーの相談を受ける体制を整えたことで、早期に事例を把握でき、早期対応につながった。	・地図にケアマネジャーからの相談事例を落としこみながら、問題を把握した。 ・ケアマネジャーとの会合で整理した課題を共有し学習会の題材にした。
【複合的な問題を抱える事例への対応】 個別事例に関して関係機関と連携し、緊急度合いに応じて適切な対応を行った。	関係機関と協働することで、事例を多面的に捉えることができ、事例の状況悪化を防ぐことができた。	地図を用い地域の状況を確認しつつ、職種別に役割分担を行ったり、個別事例の課題整理を行った。

令和元年度地域総合支援センター事業計画書の中の重点取組項目の実施内容

ふたみ総合支援センター

主な実施内容	成果	主な工夫
【ケアマネジャー等とのネットワークづくり】 ・主任ケアマネジャーと連携し、多職種連携学習会を開催。 ・地域の障害者相談員や明石高専学生等とケアマネジャーとが交流できるようマッチング。	・ケアマネジャーが高齢者支援だけではなく、障害者支援の視点を持つことができた。 ・民生児童委員、障害者相談員等とケアマネジャーが一緒に地域共生社会について考えることができた。	・ケアマネジャー、サービス事業所、行政との横のつながりの強化を図るため、防災を学習会のテーマとした。 ・障害当事者（明石ユニバーサルツーリズムを考える会）や明石高専学生の街歩き企画に、居宅のケアマネジャーが参加できるよう調整した。
【住民同士の支え合い活動支援】 住民同士の支え合い活動の促進に向けて、ボランティアが活動しやすい仕組みづくりについて、ボランティアサポーター等と定期的に協議。	ボランティアサポーターと協働し、研修会の企画につながった。	支え合い活動の担い手確保のために、不安なくボランティア活動できる仕組みづくりから検討した。
【地区の健康課題を住民と検討】 まちなかゾーン会議で健康課題を抽出するための協議を開始。	・抽出した課題について実態調査を開始することにつながった。 ・解決に向けた具体的な取組につなげるため、モデル地区を選定し、自治会長と協働し進めることとなった。	・健康推進課と連携し、新あかし健康プラン21のアンケート結果を用いて健康課題を検討した。 ・集合住宅と戸建住宅が混在する地域活動の活発な自治会をモデル地区とした。